

学校名	小岩第三中学校	対象学年と人数	全学年有志 43名 1学年 191名
活動名	三中の環境プロジェクト		
指導者	学内指導者：永野 美智代 学外支援者：日高 久仁子（学校応援団）、イノシシクラブ、PTAの方々 えどがわエコセンター、えどがわ環境財団、（株）東京ガス		

目標

1. 地球温暖化を防ぐための方法として燃料電池を学び、また校内の緑化活動に取り組む。
2. 身近な野生生物を観察・調査することにより、自然環境に興味を持たせ、環境保護の意識を高める。

成果

1. 燃料電池

1年生が（株）東京ガス主催の出前授業「燃料電池」を受講した。風力発電、太陽電池などを学んだ後に、生徒一人一人が燃料電池キットを用い、「水素と酸素から電気を作ることができる」ことを体験した。生徒たちは、大気をよごさないエネルギーを自分たちでつくることができることに驚き、地球温暖化防止に貢献するエネルギーの素晴らしさを学ぶことができた。

2. 屋上緑化

屋上に、クウシンサイ、モロヘイヤ、ミニトマト、サツマイモ、サトイモ、ジャガイモ、ニンニク、ピーマン、サニーレタス、サンチュ、ガーベラなどを種や苗から育てた。週に2～3回の緑化活動では、小さな種子からの植物の成長に目を見張り、雑草取りの大変さを知り、収穫の喜びを味わうことができた。

また、屋上で野菜を育てることにより、都会のヒートアイランド現象を防いでいること、身近で野菜を育て食することで、輸送に用いるエネルギーを使わなくてすむ地産地消を理解し、実践することができた。

3. 学校花壇の整備

校舎前の花壇に、サフラン、スイセン、ムスカリの球根、コデマリ、ヤマブキの苗木、菜の花の種をまき、愛情を持って育てることができている。また、えどがわ環境財団の協力・指導のもとに、生徒登校門にウエルカム・ガーデンを設置し、生徒が気持ち良く登校できる環境を、自分たちで作ることができた。

4. 生き物調査・自然観察会とピオトープ

江戸川の生き物調査を2回実施し、ホウネンエビ、ドジョウ、アマガエルや絶滅危惧種のメダカ、トウキョウダルマガエルなどの身近な生き物とふれあった。捕まえた生き物は、再び自然にもどしたが、メダカ5匹は持ち帰り、学芸発表会で展示をした後に予算で購入したピオトープ用の池に放したところ、繁殖を確認した。近年の外来種問題を考えると、その土地の自然を再現するピオトープの意義は大きい。

感想・課題等

地球環境の問題解決のためにすこしでも役に立ちたいと、グリーンプラン推進校に立候補したが、緑化活動や生き物調査・自然観察会は生徒の心を癒やし、気持ちを安定させる働きがあることが活動を通して実感できた。

上記の成果は、今年のみでなく、継続的に行って行きたいと思っている。身近な自然に感動する心が、環境問題を解決していく活動の力になっていくと思う。